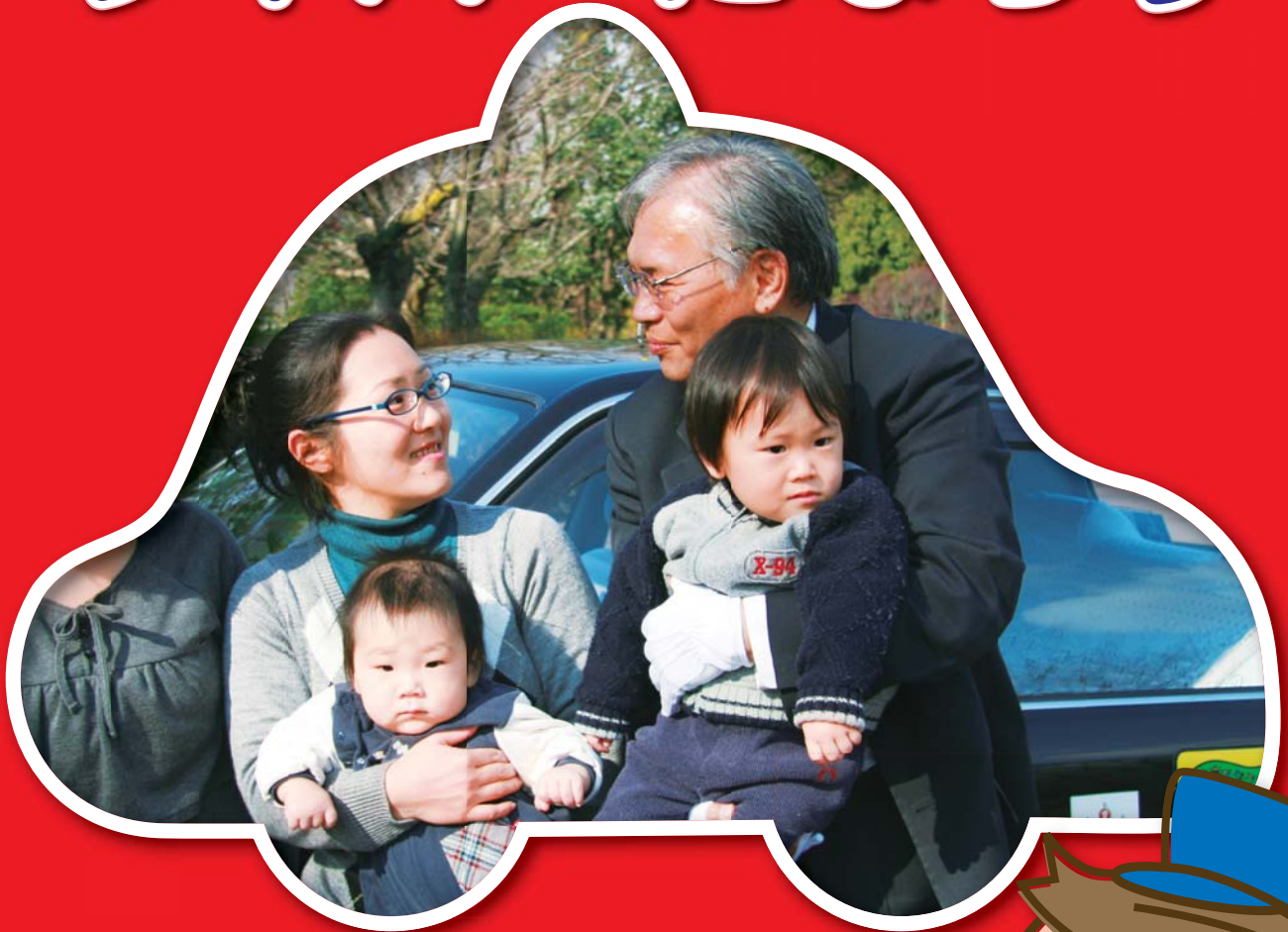


タクシーをもっと身近な乗り物に…

子連れにやさしい  
ドライバーになろう！



# もくじ

目次	1
はじめに	2
「子育て支援のタクシー」ってどう思う？	3

## 運転する前に心がけておきたいこと

身だしなみは大丈夫ですか？	5
車中を快適な空間にするために	6
運転マナーは日ごろ以上に気をつけよう	7
お客様を待っている時から仕事が始まっている	8

## いざ出発!!

産気づいている妊婦編	9
知っておきたい妊娠期の基礎知識	10
子連れ編	11
知っておきたい乳児期の基礎知識	12
知っておきたい幼児期の基礎知識	13
知っておきたい小学生の基礎知識	14



## 親子を乗せるときにぜひ実践したいこと

チャイルドシートの基礎知識	15
ベビーカーはたたんでトランクへ	17
安全運転のために協力していただくこと	18
子連れ対応、知っておきたい！ ワンポイントアドバイス	19
ドライバーに聞きました 子どもと保護者が喜ぶワザとグッズ	20

## タクシーだから味わえる

## 子連れのお客様とドライバーの心の交流

うれしかったドライバーさんの接客	21
●親子とのやりとり タクシードライバー体験談	

## 一人ひとりにできる子育て支援

知っておこう 子連れのお客様の胸のうち	23
子育て支援者からのメッセージ	24
地域の子育て事情を知ろう	25

タクシーの社会貢献！ 子どもの見守り活動が全国で展開中です	26
子育て支援とタクシー	27
研修も必要	28

# はじめに

全国的に少子化が進む中、子育て支援の必要性が叫ばれています。子育ての現場では、孤立に悩む親たちの声を耳にします。

「独身時代や夫婦だけの時みたいに、もっと気軽に外出したい!」と若い親たちは思っています。ところが、幼い子ども連れでは荷物も多く、気疲れも大きいため、なかなか外に出づらくなってしまいます。ドアからドアへ目的地に運んでくれるタクシーは、そんな親子にとって、本来はとても利用しやすい乗り物のはずです。

「お迎えをよく頼まれる。雨の日や寒い日は、タクシーを使いたい。」



「転勤してきたばかりで、どこに何があるかわからない。タクシーに乗って迷わず目的地に行きたいわ。」



## ところが…

「気兼ねする」「自分たちの乗るものではないと思っていた」「利用しづらい」といった印象をもたれているようです。



「近距離でタクシーに乗ったら運転手さんに舌打ちされた。ちょっと怖い!」



「タクシーに乗った子どもはいつもより興奮して運転手さんにいろいろ話しかけているのに完全に無視。子どもが嫌いなのかな? ちょっとは付き合ってほしいな」

子育て中の人たちは、なかなか出づらい時期だからこそ、貴重な子連れでの外出を楽しみたいと思っています。そして、タクシードライバーにも子育ての大変な部分を理解してもらい、できることは応援してほしいと感じています。

このマニュアルには、そうした子ども連れのお客様に対応するための具体的なヒントを盛り込みました。共に育ち、育てるためのサービスとして、ドライバーの皆さんのご理解とご協力をお願いします。

そして子育てをしている家庭とかわかることで、ドライバーの皆さんの仕事に対する喜びややりがい、さらに増して欲しいと考えています。



# 全国の子育て中の保護者と子育て支援NPOのスタッフに聞きました 「子育て支援のタクシー」ってどう思う？

全国的に子育て支援の必要性が叫ばれている昨今、「子育て支援」を打ち出したタクシーが各地に登場しています。タクシーに「子育て支援」ができるのでしょうか？ できるとしたら、それはどんなサービスなのでしょう？ 「子育て支援のタクシー」を利用している人たち、まだ利用していない地域の人たち、子育て支援NPOのスタッフのみなさんに「子育て支援のタクシー」について聞きました。

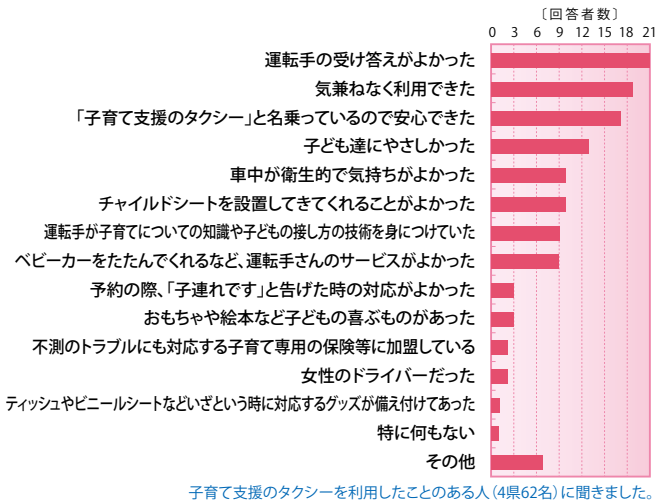
## 「子育て支援のタクシー」のここがよかった

「子育て支援のタクシー」を利用した保護者の方たちは、ドライバーの接客態度に満足しています

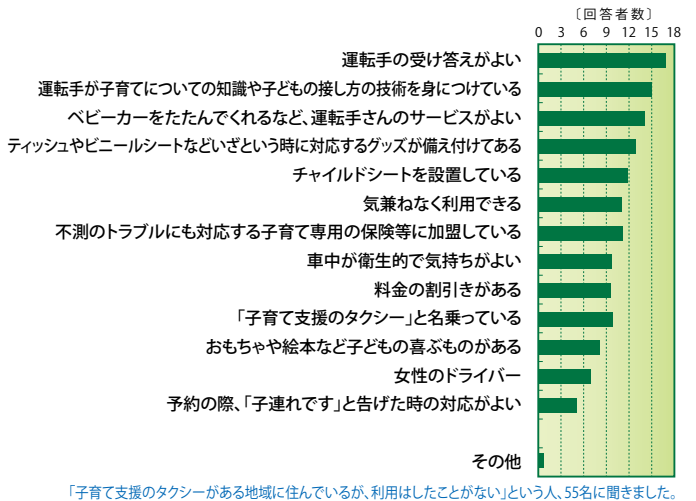
「子育て支援のタクシー」が走っていない地域の保護者の方たちは、こんな子育て支援サービスを求めています。

Q.「子育て支援のタクシー」を利用してよかったことは何ですか？

Q.「子育て支援のタクシー」を利用するとして、何があれば利用しますか？



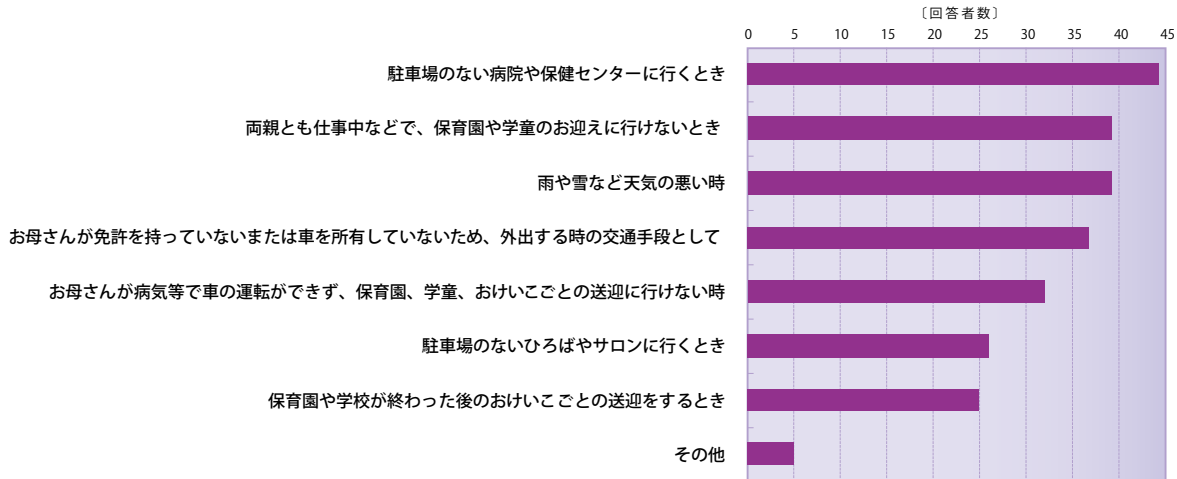
子育て支援のタクシーを利用したことのある人(4県62名)に聞きました。



「子育て支援のタクシーがある地域に住んでいるが、利用はしたことがない」という人、55名に聞きました。

## 子育て支援タクシーが必要なのは駐車場のない場所に行くとき

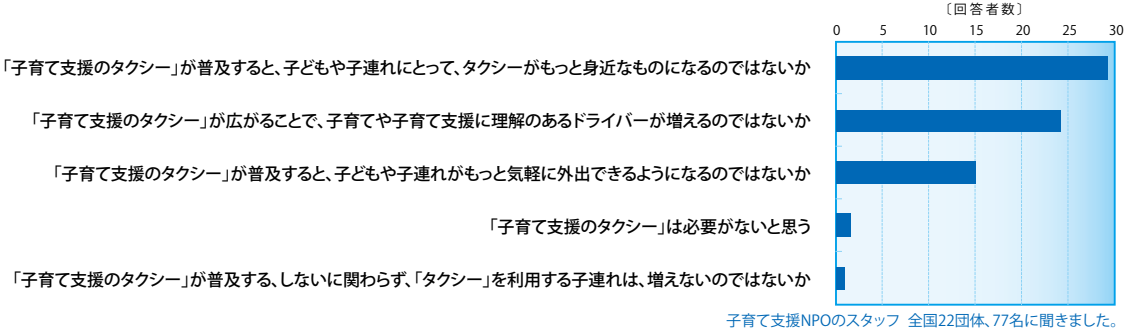
Q. どんなときに「子育て支援のタクシー」は必要だと思いますか？



子育て支援NPOのスタッフ 全国22団体、77名に聞きました。

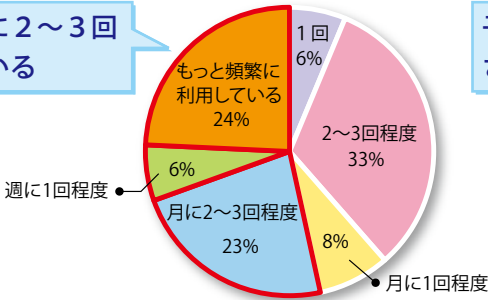
# 子育て支援のタクシーが増えることで、どんなことに期待しますか？

子育て支援のNPOの人たちは、ドライバーが子育て支援に理解を持つことで親子がタクシーを身近な乗り物と認識し気軽に外出ししやすい社会ができると期待している。

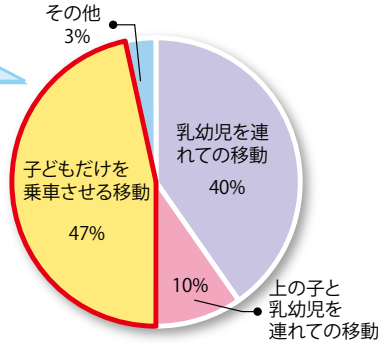


## 「子育て支援のタクシー」を利用しているのはこんな人たち

半数以上が月に2～3回以上利用している



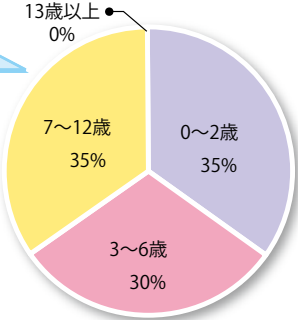
子どもだけ乗車させる利用も多い



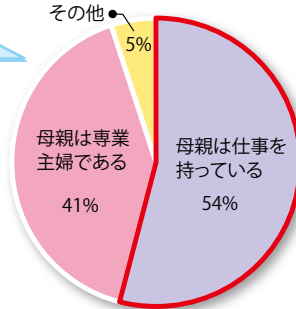
これまでどれぐらい「子育て支援のタクシー」を利用しましたか？

どのような利用が多いですか？

子どもの年齢にもばらつきがある



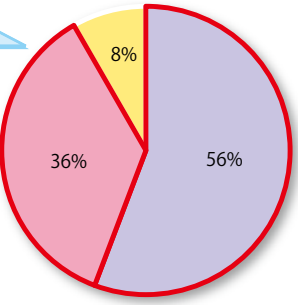
母親は就労している人が多い



お子さんの年齢と性別

母親の就労について

「子育て支援のタクシー」を選んで乗っている



■ 子連れでタクシーを利用する際は、必ず「子育て支援のタクシー」と名乗っているタクシーを利用する  
■ できれば「子育て支援のタクシー」を利用したいので、希望は伝える  
■ たまたま利用しただけで、特にこだわりはない

子育て支援タクシーを選んで利用していますか？

子育て支援のタクシーを利用したことのある人(4県62名)に聞きました。

(タクシーによる育児支援移送サービスの今後の課題分析及び運転者に対する講習カリキュラムの策定検討委員会 子育て支援のタクシーに関するアンケート 2008年2月実施 より)

# 運転する前に心がけておきたいこと

## 身だしなみは大丈夫ですか？

ドライバーは、車や運転技術だけでなく、自分自身がいわば商売道具。お客様に気持ちよく乗車してもらうためにも、身だしなみには気をつけたいものです。自分では「これぐらいでよいだろう。」と想着いても、周囲は「まだまだ…」と感じている場合もありますから、運転前には「大丈夫かな？」と同僚や家族に確認してもらって乗車するのもよいですね。

強すぎる整髪料においては  
妊娠中の女性や子どもには  
ツライ！

髪の毛は不潔感がないよう、  
さっぱりと。

ひげはそっておこう

貧乏ゆすりはやめよう

首回りは清潔ですか？

ふけは落ちていませんか？  
後ろ側もチェックしよう！

清潔でしゃきっとしている  
衣類のほうが好感度があがります

爪はマメに切っておこう



- 色の濃いサングラスは子どもに恐怖感を与える場合もあるので、かけないようにしましょう。また、気持ち良い笑顔ができるよう、鏡で練習しておくのもよいですね。
- 「こんにちは」「ありがとうございました」は、声に出してみると、本番でよいあいさつができますよ。

# 車中を快適な空間にするために…

お客さまに快適な空間で過ごしていただくために普段から車中をきれいで安心できるように整え、また気配りをしましょう。

## ● トランク

子連れのお客様は買い物帰りにタクシーを利用するケースが多くみられます。もともとベビーカーや大きな荷物を抱えている上に買い物袋なども手にしているため、「トランクをあけてください」と頼む人も多いのです。その時に困らないよう、トランクの中は常にすっきりと開けておきましょう。



## ● 助手席

助手席にドライバーのカバンや新聞、雑誌など私物を置いているタクシーを見かけることもあります。子どもは置いてあるものに興味を持って助手席に乗り出してくる危険性もあります。助手席にはできるだけ物を置かないようにしましょう。

## ● におい

子どもは大人以上に車酔いしやすい傾向があり、タクシー独特のにおいが苦手という子どもも少なくないようです。普段からタバコの臭いや、芳香剤、ドライバー自身の整髪料などのおいなどがきつくないか意識し、「空気を入れ替えましょうか。」など声をかけると安心です。

## ● 空調

子どもは大人よりも温度に敏感です。暑すぎて気分が悪くなったり、冷房の効きすぎで体調を崩したりします。お客さまから空調について言いにくいので、「冷房が効きすぎていませんか？ 風の向きは大丈夫ですか？」など、こちらから聞くようにしましょう。

## ● 音

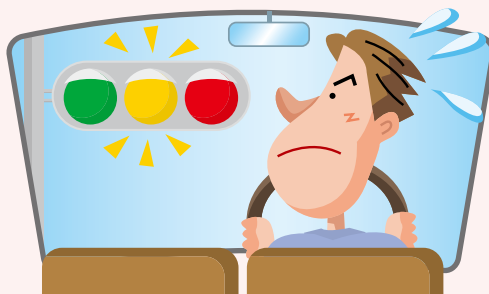
静かに休みたいというお客様もいますから、ラジオなどは極力流さないようにするか、音量は抑え目にして聴くようにしたいものです。

# 運転マナーは日ごろ以上に気をつけよう

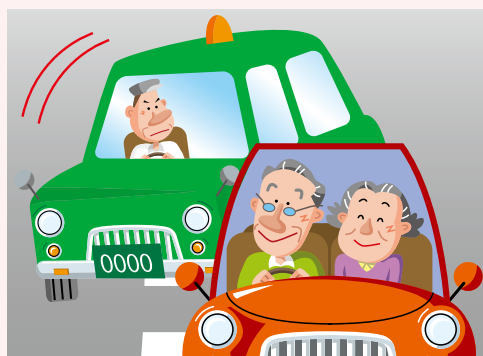
子連れのお客様に対しては日ごろ以上に安全・安心・快適な運転を心がけましょう。なぜなら、子どもは大人に比べ体が小さく安定も悪いため、ちょっとしたことでシートからすべり落ちやすいからです。また、周囲の大人からていねいな扱いを受けることで、子ども自身が「自分も大事にされているんだな。受け入れられているんだな」と確認することができます。



急なカーブを曲がる時などは、子どもがシートからすべり落ちたりしないよう、スピードを落として静かに曲がりましょう。



信号が黄色に変わったからといって、加速して渡るような運転は絶対に避けましょう。危険だけでなく、「大人なのにあんなことしてる」と、子どもに思われてしまいます。



たとえ急いでも無理な割り込みをしながら車線変更を繰り返すのは危険だけです。

落ちついて安全で安心な運転を第一に心がけましょう。

静かな運転をしてくれると、「子どもやわたしのことを気にして運転してくれるんだな」と、会話をしなくてもドライバーさんの気持ちが伝わってきます。子育ては、そんな回りの人たちのやさしさに包まれながらしたいものですね❤️





# お客様を待っている時から仕事が始まっている

接客はお客様が手を挙げた時から始まるのではありません。たくさんの方が客待ちの時のドライバーの態度を見ています。中には今日でなくても明日にはタクシーを利用してくださるお客様もいらっしゃるかもしれません。タクシーそのもののイメージを良くするためにも、客待ちの時からマナーに注意しましょう。



## 好感の持てる態度とは…

一番心がけたいのは、「客待ちも仕事のうち」という意識でいることです。お客様がなかなか現れない場合、どうしても退屈で時間をもてあますこともあるかもしれませんが、仕事であることに変わりありません。周囲から見られているという意識を持ち、行儀の悪い態度をとらないよう、気をつけましょう。

### ここに注意して！

#### 客待ち(待機中)の時の姿勢

駅前のロータリーなどで、待機中にもかかわらず、ダッシュボード等に足を乗せて休憩しているドライバーを見かけることがあります。「あのタクシーで帰ろう」と思って近寄っても、ドライバーが、そんな様子では敬遠してしまいます。特に待機中は、どこからでも見られている意識を持ち、お客様がきたら気持ちよく乗っていただけるよう、常にスタンバイ状態にしておくことが大事です。

#### タバコのポイ捨て

タクシーに限りませんが、車中からのタバコのポイ捨ては社会のルール違反。見ている人は不快に感じています。お客さんを乗せている時の禁煙は当然ですが、客待ちや休憩時間に車中でタバコを吸うことで車内に臭いが残ります。タバコのポイ捨てはもちろん、普段から車中に臭いを残さないよう心がけましょう。



#### いかがわしい雑誌や新聞は人前では広げない

休憩時間などに車中で雑誌や新聞を読んでいるドライバーさんの中に、いかがわしい写真やイラストが掲載されているページを広げていることがあるようです。

たまたま、そのページが開いていたのかもしれませんが、しかし、通りかかった人が偶然、車外から見て、どのように感じるでしょうか。

タクシーは誰もが利用する公共交通機関。タクシーに不快な印象を持たれることがないよう、人通りのある待機場所や休憩場所では少し意識しましょう。

# いざ出発!!

## 産気づいている妊婦編

① 呼ばれて行ってみたらおなかの大きな女性だった!



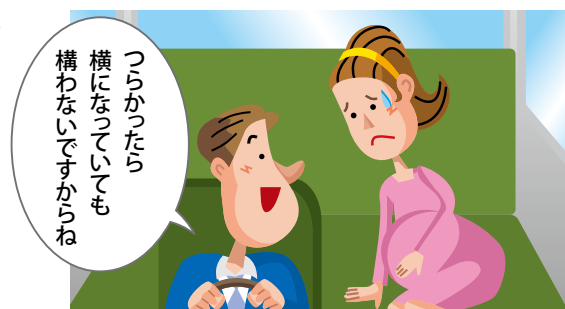
② 「すみません、お産がはじまっちゃったみたいで、〇×産婦人科まで急いで行っていただけませんか？」

こんな時は慌てず、車から降りてお客様の乗車をサポートしましょう。無線配車で事前に出産間際の方と分かっている場合は、急な破水等に備えタオルやビニール等を用意しておくとう安心です。



③ 様子を見ながら、安心するように声をかけましょう。

陣痛の痛みは間隔を置いて押し寄せてきます。痛いときとそうでないときの差が大きいのので、あまりびっくりしないようにしましょう。「病院までは、あと〇分ぐらいですからね」と伝えると安心です。



④ 病院到着。

車から降りてドアを開け、お客様をサポート。場合によっては、病院受付まで付き添ってあげたほうがよいこともあります。声が出ないぐらい痛がっている場合もあり、お客様の代わりに状況説明などしなければならない時もあります。



産気づいた妊娠中の女性ひとりを乗せる場合はめったにないと思いますが、まれにこのようなケースもあるかもしれません。お客様にとっては、人生に一度か二度の緊急事態の瞬間とも言えます。「今これをしてあげると助かるだろうな」と思われるサポートを心がけましょう。

## 知っておきたい妊娠期の基礎知識



妊娠期の状況を知り、相手の立場に立って「こんなとき、どうしてくれたらうれしいかな？」と想像することで、だんだんとコツをつかめるようになります。ぜひ、知るところから始めてみましょう。

### つわりの人がよく利用する

妊娠中の女性のほとんどがつわりを経験します。つわりは、何を食べても吐いてしまう「吐きづわり」、逆に常に何か食べていないと気分が悪くなる「食べづわり」などあり、個人差が大きいものです。日常生活が送れない程つらい人もいますので、歩けるような短距離であってもタクシーを利用するなど、利用ニーズが高まる時期でもあります。

妊娠初期には、おなかが目立たないので、「今、妊娠中なのですが、つわりが大変で…」とわざわざ言う人はあまりいないので、気持ち悪そうにしていたら、静かな運転を心がけ、「必要でしたらティッシュやビニール袋の用意がありますよ。」と声をかけましょう。

(※こういうケースも想定し常にティッシュやビニール袋を持っておくといいですね)

### お産が始まった！

破水したり、陣痛が10分間隔になるとお産の始まりです。病院に向かうためにタクシーを呼ぶ方もいます。「お産が始まっているので」と言われてもあわてないで迅速に対応しましょう。破水したり、これから破水するかもしれないお客様はバスタオルをあてている場合もあります。迎車など、あらかじめ事情が分かっている場合は、先にビニールシートなどを敷いておくと、お客様も安心です。

ほとんどの方は、病院への道順など指示もしっかりできますが、初めての出産で激しく動揺している場合もあります。道順を聞かなくてもいいように近くの主な産婦人科などをこちらが把握しておき、「大丈夫ですよ。しっかりと病院までお送りしますからね」と、力強く声掛けしてあげるとお客様は安心できます。

### マタニティマークを知っていますか？

これは、電車など混雑している街中で、周囲の人の配慮をお願いするため妊婦さんがつけるものです。「わたし、今妊娠中なんです」とわざわざ言うのは勇気がいりますが、これなら一目で分ってもらえますね。こうしたマークが全国的に広がっています。ぜひタクシードライバーのみなさんも、このようなマークをつけている女性を見たら、より静かな運転を心がけてください。



# 子連れ編

① 大きなベビーカーを押している女性が手を挙げています。双子だ！



② 「すみません、ベビーカーがあるので、トランクあけてもらえませんか？」

すぐにトランクをあけ、車を降りて親子のところに行きましょう。

③ 「すみません、ベビーカーをたたむので赤ちゃんを抱っこしてもらえますか？」

だっこも慣れないうちは赤ちゃんが嫌がって泣きますが、ここはひるまず、がんばって抱っこしましょう。



④ 「すみません、久々の外出だったんですけど、もう、くたくたで…」

「ひとりでも大変でしょうに。お母さん、がんばってますね」とねぎらってあげてください。



⑤ 「はい、お土産。お母さん、お子さんに渡してあげてください。応援してますよ」



仕事をしながら子育てしている人も増えています。仕事帰りの保育園のお迎えなどの場合、時間を気にしながら職場から急いで帰る、口もきけないぐらいくたびれているお母さんもいます。一昔前に比べ、お母さんの生活スタイルも大きく変化していることを、理解しておきましょう。



### チャイルドシートがなくても大丈夫？

タクシーやバスなどの場合、チャイルドシートの装着は例外として免除されています。本来、自家用自動車の場合は、子どもの安全対策として、装着は義務づけられているわけですから、その点につき、乗客も運転者も自覚しておく必要はあるでしょう。「お母さんがひざで抱っこして乗っているのが一番安全」とカン違いしがちですが、衝突事故など万が一の場合、一番危険なのが、抱っこされている場合です。これらの事実を予備知識として知っておき、赤ちゃん連れのお客様が来られた場合は、運転席の真後ろに座ってもらうよう促しましょう。

一部のタクシー会社では、ドライバーがチャイルドシートの装着の研修会を行い、予約の場合はあらかじめ装着して迎えに行くといったサービスを行っています。（チャイルドシートについてはP15参照）

### 赤ちゃん連れは荷物が多く、動作が遅い

小さくて弱い存在である赤ちゃんを抱えながらの外出は、新米のお母さん、お父さんにとっては緊張感を強いる出来事です。後部座席で「よいしょ」と言いながら、一般客の倍の時間をかけて、のろのろと動くお母さんを見たり、大きなバッグを抱えているのを見ると、「どうしてこんなに大げさなのだ？」といぶかしく思うかもしれませんが、「赤ちゃん連れはそういうものだ」と、認識しておいたほうがよいでしょう。

### 予期せぬハプニングが次々と起こる

健康診断などで、郊外の保健センターに行くのに初めてタクシーを利用したという子連れの人もあります。極度の緊張のうえに、赤ちゃんがねんねを始めたとか、おっぱいをほしがって泣き始めたなど、次々とハプニングが起き、パニックになってしまう人も中にはいます。ドライバーはなんとも思っていなくても、「運転手さん怒ってるんじゃないかしら…」と、勝手に憶測して、萎縮してしまう人もいますので、「あわてなくていいですよ。気にしないでください」と、声をかけてあげましょう。また、小物の忘れ物もよく出ますので、降車時には「忘れ物ないですか？」の一言を言い添えましょう。

#### 赤ちゃんの食べ物

最近、子どもの食べ物によるアトピー性皮膚炎などで悩んでいる保護者の方も増えてきました。赤ちゃんも皮膚が赤くただれてかゆかったり、深刻な場合も少なくありません。「わたしのせいで…」と悩んでいる人も中にはいるので、無用な詮索はひかえましょう。また、食べ物についても、医者からとめられているとか、食べないようにしている等々、親の考え方もあるので、飴やビスケットなども勧めないように気をつけましょう。



## 知っておきたい幼児期の基礎知識



### 座席シートからの転倒に注意して

幼児期の子どもは体型も大人と違って頭が重く、足腰が未発達。バランスが取りづらく、ちょっとした揺れや衝撃で姿勢を崩して転倒したりぶつかったりします。

チャイルドシートに座らせて安定させておくのがベストですが（P15 参照）、そうでない場合は、路面の悪い道やカーブが続く時は事前に「これからカーブが続きますから、お子さんが落ちないように気をつけてください」と保護者の方に伝えましょう。

### チャイルドロックを必ずしよう

子どもは何にでも興味を持ち、触りたがります。間違っただアをあけて転げ落ちるなどということが絶対にないように、細心の注意を払ってください。

お子さんを奥に座らせるよう声をかけるのはもちろんのこと、チャイルドロックのついている車両ならば、お子さんを乗せた時は必ずチャイルドロックをしましょう。ドアを開けるときの、「大人の後から出ようね」と一言添え、保護者の注意を促してドアを開けましょう。

また、小さい子どもは何にでも興味を持ち、触りたがります。チャイルドロックのついていない車両は特に声をかけて、ロックにお子さんが触らないよう、保護者の方へ促しましょう。

### 子育てと家事や仕事でくたくたのお母さんもいる

2歳前後の動きたい盛りの子どもの「第一反抗期」とも呼ばれ、お父さん、お母さんでも、もてあましている時期です。乗り慣れないタクシーに興奮して普段以上に騒ぐ子どももいるでしょう。騒ぐ子どもをちっとも注意しない人もいるかもしれません。ですが、その人は注意もできないくらい疲れているのかもしれない。

ご近所同士の助け合いが姿を消した昨今、お母さん一人で家事・育児・仕事に奮闘している家庭も多くみられます。そんな現実があることも、知っておきたいものです。

### 後部座席もシートベルト義務化に

平成19年6月に道路交通法が改正され、後部座席でもシートベルトの着用が義務付けられました（平成20年6月施行予定）。大人だけの乗車の時もシートベルトの声かけはもちろんですが、子連れのお客さまはお子さんへのシートベルトについても装着を促すよう声をかけましょう。

チャイルドシートを用意できないタクシーでは、後部座席左右の3点式シートベルトでは、小さいお子さんは首などにベルトがかかり危険ですので、できれば後部真ん中の2点式シートベルトの場所をおすすめしましょう。



### 初めてのタクシーは不安でいっぱい

小学生になると、学校や塾、おけいごごとの送り迎えなどで一人でタクシーに乗る場合も増えてきます。乗りなれている子どもの場合はよいのですが、最初はどの子どもも緊張するものです。

「この道通っていいのかな？」とさりげなく聞いただけなのに、かえって不安をあおってしまったり、ドキドキさせてしまうこともあるでしょう。「どんなことがあっても、きちんと送り届けるから、安心してね」というメッセージが伝わるように心がけてください。

### 周囲の目は気にしないで

「子どもだけタクシーに乗せる」という文化は、日本にはまだまだ根付いているとはいえません。「周りからはぜいたくなと思われるんじゃないだろうか」「子どもがかわいそうと思われるんじゃないか」と、後ろめたい気持ちをかかえて、子どもをドライバーに託す親御さんも少なくありません。

お子さんを安全に送り届けるのが一番ですが、あわせて「タクシーの便利さに気付いてほしい」「もっと気軽に子育て中の人たちにもタクシーを利用していただきたい」というメッセージを、お客様に言葉や態度で示すことで、利用の敷居を低くすることができるでしょう。

### できれば降りて玄関まで見送ろう

夜、子どもだけでタクシーを利用する場合は、できればタクシーを降りて、子どもたちが玄関に入るまで見届けたいもの。子どもによっては、携帯電話などで親との連絡を取れる子もいるので、「もうすぐおうちに着くよってお母さんに電話したら？」といった声がけをするのもよいですね。

## 子どもをひとりでタクシーに乗車させることについて

「子ども一人の乗車は何歳からと考えたらよいだろうか？」本冊子を作成するにあたり、こうした議論が起こりました。保育園への急なお迎えなど、赤ちゃんや幼児だけの送迎の要望もなきにしもあらずですが、子ども自身、ドライバーの不安を考えると、未就学児だけの送迎は避けたほうがよいのではないかと結論に達しました。

また、障がい児の送迎にはどう対応するかについての議論もありましたが、個別性が高く、きめ細かな対応が必要なことから、専門的な研修を受講するなど知識と技術を身につけていないドライバーは、安易に対応するべきではないのではないかと考えました。

子どものみを送迎する場合のスキルについて学ぶ研修なども登場しています。こうした多様なニーズにお応えしていくことでサービス向上に務めていくことも大切です。

# 親子を乗せるときにぜひ実践したいこと

## チャイルドシートの基礎知識

平成12年4月の道路交通法改正で、自家用自動車においては、原則として「運転者は6歳未満の幼児を乗車させる場合には、その幼児にチャイルドシートを使用させなければならない」と義務付けられました。タクシーはチャイルドシートの装着義務を免除されていますが、本来は、乳幼児が乗車する際に必要なものであることに変わりはありません。子連れのお客様とわかっている場合には、年齢にあったチャイルドシートを装着しておくことが喜ばれます。

また、平成18年10月には、日本でもチャイルドシートの安全基準として、「ECE 規則 44号」が採用され、商品の安全基準もより厳しくなっています。

### チャイルドシートとは

チャイルドシートは子どもの命を守るための安全装置であり、道路運送車両の保安基準に適合するものでなければなりません。チャイルドシートは、幼児の発育の程度に応じた種類があり、現在は主に0～4歳対応の「ベビー用」と、3～12歳対応の「ジュニア用」の2種に分かれています。

### チャイルドシートの種類

#### 1. ベビー用シート（新生児～4歳ごろまで）

新生児は後ろ向きに、お座りができるようになったら前向きに固定するタイプのものが一般的です。メーカーによって適応体重が異なるので注意しましょう。



#### 2. ジュニア用シート（3～12歳ごろまで）

子どもの体格に合わせて大人用のシートベルトが安全に使用できるようにする装置。座面を高くしてシートベルトが安全に着用できるタイプと、側面をカバーするタイプが販売中ですが、前面衝突・追突された場合等は安全面での効果は同じです。

タクシーのような事業用自動車の場合は、使用しない時にトランクにコンパクトに収納できる小型のシートがよいかもしれません。



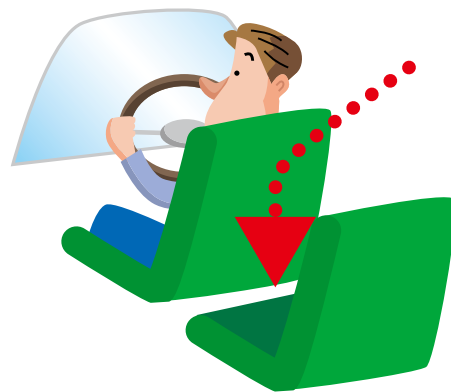
取材協力：リーマン株式会社



## 装着について

### ● 運転者の真後ろに装着しましょう

車の中で一番安全な場所は後部座席真ん中、その次が後部左右と言われています。タクシーの場合は乗降ドアと反対側の、運転席の真後ろに取り付けるのが、安全かつ便利でしょう。



### ● 正しく装着しなくては意味がありません

チャイルドシートを装着する際は、シートベルトの緩み・ねじれなどがないようにガッチリと固定しなければならず、かなりの力が必要です。メーカーの取扱説明書をよく読み、繰り返し練習しておきましょう。理解したつもりでも、時間が経つと忘れてしまうこともあります。JAFなどが主催するチャイルドシート装着の研修に、定期的に参加するのもよいですね。



## 移動中の注意点

### ● 室内環境に気を配ってください

チャイルドシートに座っている子どもは自分で動くことができません。夏の強い日差しや車内の冷暖房の吹き出し口の向きなどには気を配りましょう。とくに長時間移動する場合には注意が必要です。

### ● 子どもの安全を第一に

チャイルドシートを使用しているときは、子どもがぐずりだしてもそのまま装着し続けることが基本です。お母さんが泣き声に気兼ねしているときには「構いませんよ。もしものときの安全のほうが大事ですよ」と伝えるとよいでしょう。

## アンケートより

雨の日に病院まで利用しましたが、チャイルドシートを設置してくれて、とても安心感がありました。「子どものくつでシートを汚さないかしら…」とひやひやする必要もありません。距離は短かったのですが、気持ちよく利用させてもらえてうれしかったです。(2歳4か月の男の子の母)

空港からの利用など長距離や高速道路の移動の時には、やはりチャイルドシートがあると安心です。営業所にいつでも置いてあり、すぐ装着できるとわかっていれば、こちらから「チャイルドシートをお願いします」と伝えることもできますよね。(1歳10か月の女の子の母)

# ベビーカーはたたんでトランクへ

ベビーカーは近年、外国製のものも多く輸入されるようになり、機能もデザインも親のニーズに合わせて、どんどん変化しています。メーカーや製造年によってたたみ方や広げ方などがまったく違うので、乗車時などに気軽に「たたみましょうか」とは言わないほうが賢明です。

## 1. 降りてお手伝いしよう

荷物を抱え、赤ちゃんを抱っこしながらベビーカーをたたむことは不可能です。ベビーカーの子連れのお客様がタクシーを呼びとめたら、乗り込むのを待つのではなく、降りてお手伝いをしましょう。

## 2. どちらかお手伝いを申し出よう

ベビーカーを見たら、まずトランクを開きます。慣れている親の場合は、ドライバーに何をしてほしいか伝えてくれますが、慣れてない場合はドライバーが主体的に動きましょう。「赤ちゃんは抱っこしてますから、ベビーカーをたたんでいただけますか」あるいは、「ベビーカーはたたみますから、赤ちゃんをお願いします。たたみ方を教えてください」というように、抱っこかベビーカーの収納が、保護者の方と作業を分担しましょう。



見知らぬ人に抱っこされて不安な赤ちゃんもいるので、必ずお母さんの目の前で待たせましょう。



ベビーカーによってたたみ方がまったく違うので、下手に扱えば壊してしまう場合もあります。保護者の指示に従いながら、手順どおりたたむのがコツです。

## 3. トランクにしまう

お客様によっては、ベビーカーに大量の荷物を入れている人もいます。まずその荷物をトランクに運び、ベビーカーを収納することになるので、トランクにはある程度余裕のある広さが必要です。「ずいぶん大きな荷物ですね！」などと言いたくなるかもしれませんが、「子連れなのにこんなに買い物してと思われる」と悪いほうにとらえてしまう人も中にはいるので、あまり話題にしないほうがいいでしょう。

### ベビーカーいろいろ

双子用のベビーカーやハンドルの位置が高めでお父さんも利用しやすい外国製のベビーカーなども登場しています。興味があれば、育児用品専門店などでチェックしてみても勉強になるかもしれません。

# 安全運転のために協力していただくこと

安全で安心、そして快適な運転ができるようになったら、今度は親子に対しての気づかいを見せるとさらに子連れのお客様は喜びます。最初はぎこちなくてもやりとりを進めるうちに自然に言葉かけができるようになります。ぜひ、試してみてください。



ドアの開閉時に子どもが動き回ると、挟まったりの危険があるので、乗車のときはまず子どもから先に乗るよう促しましょう。



ドアに近い場所に座っているとスカートのすそなどが挟まりやすいものです。注意を促すために、一声かけてドアを閉めましょう。



立ち上がったリドライバーに触りたがったり、思いがけない動きをする場合もあります。注意しない保護者もいるので、「危ないよ。ちゃんとシートに座っていてね。」と、はっきりと注意しましょう。



到着がわかったら、真っ先に外に飛び出したいのが子どもです。会計が済むまでドアを開けないのはもちろん、「お母さんと降りようね。」といった声かけを必ずするようにしましょう。

# 子連れ対応、知っておきたい！ ワンポイントアドバイス

親子を乗せるときにぜひ実践したいこと

## 赤ちゃんのくつはほとんど使っていない場合が多い

赤ちゃんがくつそのまま乗車すると、「シートを汚されるんじゃないか？」と気になるドライバーもいることでしょう。しかし、抱っこされているため赤ちゃんのくつは使っていない場合がほとんどです。「汚れていなければ、そのままどうぞ。」といった声かけのほうに印象がよいでしょう。



## 小物の忘れ物に注意

絵本やおもちゃ、タオル、おしゃぶりなど子連れのお客様はこまごましたグッズが多いのが特徴です。置き忘れた小物が子どものお気に入りだった場合などは大変です。降りる際には「忘れ物ないですか？」と注意を促してあげましょう。



## だめなことはダメと言える大人になろう

マナーの悪い子どもの親もマナーが悪いという話はよく聞きます。あまりに行儀が悪い場合は、「危ないから、やめようね!」と、はっきりと注意をしましょう。ここで、「最近の親は子どものしつけもろくにできない」とか、「どういう育て方をしているんだ」とかお説教くさくなってしまうと、せっきくの「注意」が届きません。くどくど言わず、子どもにこうしてほしいと思う点だけ、感じよく伝えるよう心がけましょう。



# ドライバーに聞きました 子どもと保護者が喜ぶワザとグッズ

「子どもはうるさくてかなわない」と敬遠するのではなく、子どもも大切なお客様と思って接すると、子どもにもその気持ちは伝わります。ちょっとした工夫で、移動の間がとても楽しい時間になります。ぜひ、試してみてください。

## 折り紙



「おもちゃなどを渡してしまうと、降りるときに返してもらうのに一苦労という場合もあります。だから、折り紙などあげられるものがよいですね。待ち時間などに鶴や凧などを折っておいて、お子さんが乗車された時にタイミングを見て手渡します。お子さんはもちろん、お母さんもとても喜んでくれるので、手渡すのが楽しみになりました」  
(大阪市・48歳男性ドライバー)

## 携带着メロ



「携帯の着メロを童謡や子どもが喜ぶアニメの主題歌などにしておき、ぐずり始めたら鳴らしてあげたりしています。思いがけない歌が聞こえて、子どももお母さんもびっくり。車中の雰囲気が一気になごやかになりますよ」  
(高松市・32歳女性ドライバー)

## 絵本



「絵本を数冊手元においておき、子どもさんが泣いて泣いて大変な時や、飽きてしまって暴れる時などに『お母さん、よかったらこれ読んであげて』と手渡したりしています。アニメキャラクターの本などにすると、持って帰りたくなってしまうので、定番の絵本がいいですね」  
(長崎市・56歳ドライバー)

## なぞなぞ

「いくつかなぞなぞを仕入れておいて、『さて、問題です!』と子どもに問いかけます。今のお母さんたちはのりがいいので、『あ、運転手さんが何か問題出してくれるよ。わかるかな?』などと盛り上げてくれます。一生懸命考えている子どもの様子はかわいいものですよ」  
(坂出市・62歳ドライバー)

## あったらうれしい! グッズの数々

ビニール袋などのエチケット袋や、ティッシュは常備し、いつでも「どうぞ」と渡せるようにしておきましょう。

急に赤ちゃんがおっぱいをほしがって泣き始めたりする場合などは、大判の風呂敷が重宝されます。授乳用のナーシングケープもあります。



# タクシーだから味わえる 子連れのお客様とドライバーの心の交流

## うれしかったドライバーさんの接客

実際に子連れでタクシーを利用したお母さんたちから、「こんな対応がうれしかったです」という声が寄せられました。ぜひ、参考にしてください。

### ● 機転の利く対応に感謝です

子どもがタクシーのなかで、「おしっこ!!」と大きな声で叫びました。運転手さんはイヤな顔一つせず、近くのコンビニに停車してくれて、「荷物は見えているから、急いでママと一緒にトイレに行ってください」と言ってくれました。「おもらしたらどうしよう」と、ヒヤリとしましたが、助かりました。



### ● 傘でのお迎えに大感激

雨の強い日、呼んでおいたタクシーの運転手さんが車を駐車場に止め、傘をさしてマンションの前まで出迎えてくれました。私があわてっていると「ゆっくりでいいですよ」とにっこり。タクシーのイメージが一変した出来事でした。

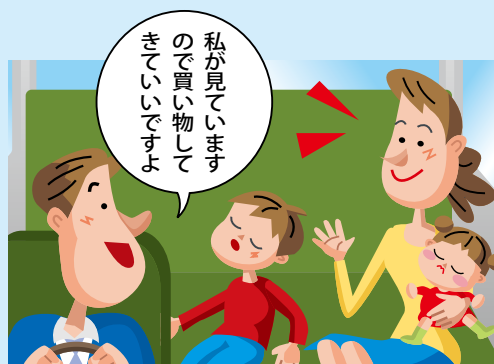


## 「子連れのお客様にまた乗ってほしい！」 親子とのやりとり タクシードライバー体験談

ちょっとしたことなのに、  
こんなに感謝されてしまった！

2人の子どもを連れたお母さんが乗車してきた時のこと。途中で買い物をしたいということで、スーパーに向かったのですが、着いた時には子どもたちが寝てしまっていました。

困っていたお母さんに「私が見ていますので買い物してきていいですよ」と申し出ると、すごく喜んでくれました。ちょっとした親切が、こんなに喜んでもらえるなんて、私の方が驚いてしまいました。



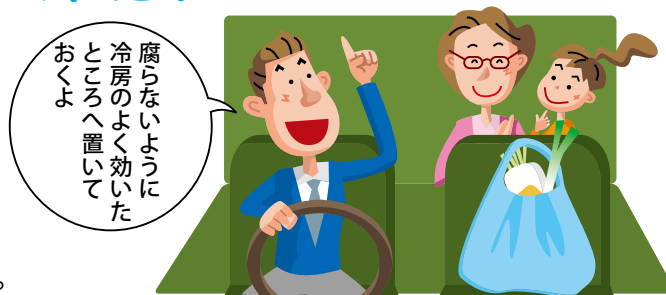
## ● 忘れ物を届けてくれた

運転手さんに「忘れ物はありませんか？」と聞かれたにもかかわらず、子どもを抱えていたのでちゃんと確認もしないまま「大丈夫です」と答えて降りてしまいました。しばらく歩いていると、運転手さんが追いかけて来て、子どものお気に入りのミニタオルとオシャブリを持ってきてくれました。これからは、きちんと確認して降ります！



## ● スーパーの食材まで心配してくれた！

ぐずっている子どもと大きな買い物袋を抱えてタクシーをお願いした私を見た運転手さんは、車から降りて、買い物をした荷物を持ってくれました。おまけに生鮮食料品の入っている買い物袋をトランクに入れずに助手席に置いてくれました。自宅についても玄関まで買い物袋を持って来てくれたんですよ。



## ● 運転手さんが見送ってくれた

私の実家は島なのですが、タクシーを利用して帰省した時のこと、港まで送ってくれたタクシーの運転手さんが、足元の悪いのを気づかって、なんと車から降りて荷物とベビーカーを持って栈橋の中まで見送ってくれました。いつまでも忘れられない思い出です。



子連れのお客様の乗車について体験談を募ったところ、心温まるエピソードがたくさん寄せられました。

### お母さんって不安だらけ なんですね

病院にお迎えに行くと、玄関口に立っていたのは、赤ちゃんを抱っこしたお母さんと足もとに置かれたたくさんの荷物。赤ちゃんを抱っこしたまま、荷物を持ちタクシーに乗り込むのはとても大変そうだったので、慌てて運転者席から降り、荷物をトランクへ入れ、タクシーに乗る時も「大丈夫ですか？」と声掛けをしたら、すごく喜んでいただけました。車内で話を聞くと、出産後の退院らしく、あいにく家族が所用で迎えに来れず、とても不安だったそうなんです。私のかけた一言で不安が安心に変わったそうです。



# 一人ひとりにできる子育て支援

## 知っておこう 子連れのお客様の胸のうち

子どもや子連れに限らず、高齢の方や障がいを持った方たちが、気兼ねなく行きたいところに行ける社会をめざして「ユニバーサルデザイン」の考え方が広がり始めています。同時に、多様なニーズに最もよく応えられる移動手段としてタクシーの存在意義が改めて認められ始めています。

「どのお客さんも皆同じ」ではなく、一人ひとりのニーズにできる限り応えようとする姿勢が、ドライバーには求められています。乗り慣れないタクシーにドキドキしながら乗る保護者の方や子どもの気持ちを察し、感じのよい対応を心がけましょう。

### 子連れでの外出なんて無理だと思っている …

社会全体に子どもに対する寛容さがなくなってきたせいもあり、親たちは子どもが泣くだけで、周囲から冷たい視線を受けています。しかも、出先のおむつ交換や授乳、着替えなど手間も多く荷物も大きくなってしまいます。「そんな子連れでの外出なんて、無理！」と思いながら、思い切ってお出かけしているのが、今、あなたが乗せているお客様なのです。緊張の連続で、せっかく声をかけても、「いいです！ 結構です」と拒絶してしまう人もいるかもしれません。折り紙をそっと手渡すなど、静かな中にも打ち解けた空間になるよう、配慮できるといいですね。



### 価値観の押しつけが苦手です ……………

「子育てはこうしたほうがよい」と、周囲からいろいろなことを言われて、多少げんなりしている保護者の方も少なくありません。ドライバーからも「子育てはこうしたほうがよい」と言われても、ありがた迷惑なだけです。「お子さん、よく笑ってかわいいですね！」という具合にほめてあげるのが保護者の心には一番の栄養です。



### 大切な子育て仲間になろう ……………

働いている子どもたちに代わって、孫の送迎を任されている祖父母も増えてきました。「子どもは親がみるものだろう」という考えの人には、違和感があるかもしれませんが、多様な子育てのあり方が認められる昨今ですから、ぜひ慣れない孫育てに奮闘中の方たちの応援団になってあげてください。常連のお客さんになると、孫の成長をともに喜ぶ「子育て仲間」にもなれるかもしれませんね。





# 子育て支援者からのメッセージ

## 子どもの心とからだの成長を見守る保健師さん

保健師は、健診や家庭訪問を通じて、子どもの成長や親子のかかわり等、子育てのさまざまな相談を行っています。大人の価値観やライフスタイルが多様化し、核家族化が進む中、家族の姿も一昔前とは比べものにならないくらい複雑になっており、子育てに悩むお父さん、お母さんも少なくありません。ドライバーさんには、保健師は子どものことだけでなく、お母さんの健康も含めて、気軽に相談にのってもらえる存在であるということを知っていただきたいと思います。そして、馴染みになったお客様やそうでなくても、車中のちょっとした世間話の中で、子育てについて悩んでいるような話をされた場合、「保健師さんが気軽に相談にのってくれるみたいです」と情報の一つとして提供してあげてほしいなと思います。そんな一言が、重大な子育ての問題を防ぐ手助けになるとと思います。



## ワーキングマザーの強い味方、保育士さん

保育園は共働き家庭のお子さんを預かる施設です。お子さんたちが日々、楽しく元気に育っていけるよう、様々なケアを行っています。最近感じるのは、お父さん、お母さんの働き方に余裕がなくなってきたなということです。お迎えの時間も10年前ぐらいに比べると明らかに遅くなっていますし、それだけ保護者の皆さんも疲れています。お迎え時間に間に合わず、タクシーで迎えに来る人やタクシーにお迎えを頼む人もいます。「ぜいたくね」と周囲が冷たい目を向けては、その親子を追い詰めることになります。残業がなくなるような働き方がベストなのでしょうが、それがままならない現状なら、今は、少しでも親子の負担を軽くするために、何でもやってみようというところにきているのだと思っています。



## 乳幼児期の親子と共に生きている子育て支援スタッフ

赤ちゃんを育てているお母さんは外出の機会がなく、出かけられる場所もないということで、そうした親子が気軽に出かけられる場所として「子育てひろば」というものが全国各地につくられています。わたしはNPO法人が運営するひろばでスタッフをしています。「ひろばがないときは、どこに行ってもよいかわからず、ショッピングセンターをただ毎日あてもなくうろろするだけでした。ひろばができて、子どもにも私にも友達ができて本当に助かりました」といったお母さんの声を聞きます。イベントなど開催するときは、遠方からタクシーに乗って来てくれる人もいます。「昼間から仕事もせず、いい気なもんだ」とみる人もいますが、子育ての大変さに、周囲の大人がもっと気づいてくれてもよいですね。



# 地域の子育て事情を知ろう

近年、インターネットの普及や共働き家族の増加などの影響もあり、子どもを育てる環境は今の大人の子どもの時期と比べても大きく変化していると言えます。そうした最近の子育て事情を知って、子連れのお客様と接することはとても大切です。まずは「知りたい」ということ、そしてアンテナを高くして、情報をキャッチするよう心がけることから始めてみましょう。

## 子育て事情を知るために

### (1) 市の広報などで子どもや子育てに関する催しを知っておく

育児相談の多さや、健診の多さにびっくりされるのではないのでしょうか。核家族が増えたことで、平日はひとりっきりで子育てしているお母さんもいます。孤立するのを防ぐためにさまざまな居場所づくりが広がっています。

### (2) 地域の子育て情報誌を手に入れる

市町村によっては、子育て家庭向けの情報誌を発行しているところもあります。これは無料のもの、有料のものなど様々です。また、子育て支援センターのような場所を訪ねると、子連れマップやイベントを紹介したカレンダーなど、子連れ向けの様々な情報の載ったフリーペーパーが置かれています。「子連れのお客様のために情報を知っておきたいので」と説明すれば、係の人も快く対応してくれるでしょう。

### (3) 子育て団体と交流してみる

地域には様々なボランティア団体がありますが、このところ「子育て支援」をメインの活動にしている団体も増えてきました。地域の子育ての事情や、幼稚園や学校事情、親子の遊び場など子育てに関する情報は、その団体が一番多く把握しているといっても過言ではないでしょう。同僚の人たちと連絡を取り合って、こうした団体に話を聞きに行くと、今までわからなかったことがすべて腑に落ちた…といったこともあるようです。最初はちょっと気後れしますが、ぜひ、勇気を出して交流してみてください。



近くの子育てサークルや親子広場へ出向いて情報交換しませんか？



さまざまな地域の子育て情報誌があります。

タクシーの  
社会貢献！

# 子どもの見守り活動が全国で展開中です

全国各地のタクシー協会では地元警察と連携し、防犯活動の取り組みとして地域の子どもの見守り・有事の保護活動を展開しています。「こども110番」「安全パトロール」など、名称はさまざまですが、「地域の子どもたちをトラブルから守り、安全で安心できる地域社会の実現に寄与する」という理念は同じです。「子連れに優しいドライバー」であると同時に、「地域の子どもたちの幸せを願うドライバー」として、もしものときの子どもの安全確保に努めましょう。

## もしもトラブルに巻き込まれている子どもが助けを求めてきたら…

### 子どもを保護する

1

- 子どもが救護を求めようと近づいてきた場合は、周りの交通状況に注意しながらタクシーを停止させる。
- お客様を乗せている場合は、緊急であることを告げて協力をお願いする。
- 保護したら、子どもを落ち着かせ、安全であることを伝える。

### 事情を尋ねる

2

- 「何があったか」「いつ」「どこで」「どうなった」かを尋ねる。
- 可能であれば犯人の特徴も尋ねる。

### 110番への通報

3

- 子どもが救護を求めてきたこと、聞き取った状況を伝える。
- 現在位置と状況を伝える。

### 警察からの指示を受ける

4

- その後どのように対処すべきか、警察からの指示を受ける。
- 警察到着まで、子どもの安全を確保する。

### 注意

！タクシーの役割は保護・連絡係です。凶悪犯罪等のおそれがあり保護が難しいときは、無理をせず110番通報だけを確実に行ってください。

！危険な場合は、子どもを保護して直ちに現場を離れてください。

！単独での犯人逮捕や追跡は、危険が伴うのでやめてください。



見守り活動を実施中のタクシーは、万一、子どもが事故や事件に巻き込まれた時に駆け込めるよう、タクシーの目立つところにステッカーを貼っています。協会によっては研修活動も併せて実施しているところもあります。

## 見守りが、犯罪の抑止につながります

多くの目が見張っていることが、犯罪そのものへの抑止につながります。「今まで何も無かったから大丈夫」ではなく「もしかして起きるかもしれない」という気持ちで、地域の子どもたちの「移動見守り隊」として取り組んでいきたいものです。

# 子育て支援とタクシー



## 安全・安心・快適な移動のために

タクシーは、お客様ひとりひとりの多様なニーズにお応えし、移動サービスを提供する公共交通機関です。少子高齢化が進行する今の日本では、お客様のニーズは、ますます多様になってきています。しかし、なかでも子どもや子連れのお客様に対してどのようなサービスが必要か、何が望まれているのかといった点については、これまで十分な議論が行われてきませんでした。

その理由には、「介護や障害者福祉のような支援制度がなく、子どもや子連れにどのようなサービスをタクシーが提供すべきか分りにくい」、「もともと子どもや子連れ利用が多くはない」、などドライバーが『子連れや子どもに対し、率先してきめ細かなサービスを提供したい』と思うようなインセンティブがない」といった点が挙げられるようです。

子どもや、「子連れでは外出したくてもできず、孤立しがちな親」に対して、個別対応を特徴とするタクシーは最も適した移動手段であると言えます。しかし、現状では「子連れでの外出がしやすくなってほしい」というニーズはあがっても、それが「タクシーを利用して外出を増やす」というアクションに結びつかないのは、なぜでしょうか。

「すべてのお客様にとって、安心で安全で、利用しやすいタクシー」を目指すなら、タクシーが積極的に子どもや子連れのお客様の事情とニーズを把握して、お客様の求めるサービスを自ら提供することでお客様の外に出たいという思いが実現するように手助けしていきましょう。



## 地域コミュニティの一員として

公共交通の担い手としてだけでなく、企業の社会的責任として、タクシーには地域コミュニティの一員としての役割を果たすことが求められています。現在、全国各地のタクシーが、地域の子どもを見守りに協力している事例が紹介されています。このように地域を現場に、地域の人の日常を支え、人と人をつなぐ役割も果たしているのがタクシーと言えます。

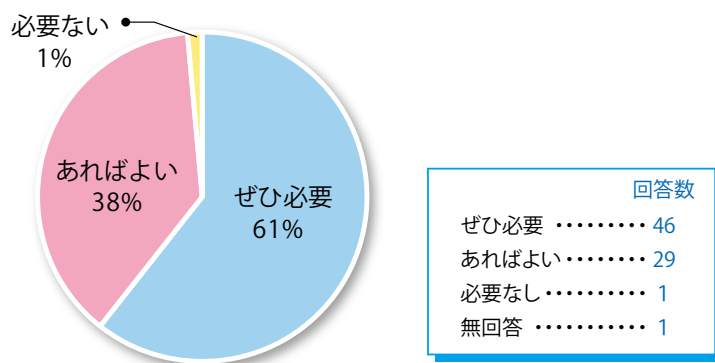
自分の子どもでなくても、地域社会で育つ子どもの幸せを願わない大人はいないのではないのでしょうか。そんな大人としてのやさしさを、仕事のうえでも発揮し、それをサービスにつなげていく…。タクシードライバーならではの「子育て支援」活動が、いま、求められていると言えるでしょう。



# 研修も必要

全国の子育て支援をしている NPO のリーダーへのアンケートで『Q. 子育て支援のタクシーにおいてどのようなサービスが必要と思うか?』と聞いたところ、ベビーカーの乗せ降ろしの手助け、夜間救急病院や当番医への案内、チャイルドシートの設置、に次いで多かったのが「子育て支援に特化した研修を受けているドライバーがいること」でした。

子育て支援に特化した研修を受けているドライバーがいる



子育て支援NPOのスタッフ 全国22団体、77名に聞きました。

手引きを少し読んだ程度では、地域の子育ての情報や、子どもとのコミュニケーションの取り方、何かあった時のための救急処置などは、なかなか身につけません。子連れと関わる「安心・安全のドライバー」として、子育て支援に特化した研修等を受けておくと、お客様に「信頼できる!」と思ってもらえますし、ドライバーの自信にもつながるのではないのでしょうか。

## 子育て支援に特化した研修を受けたい場合は...

子育て支援に特化した研修を開発、実施している団体として「全国子育てタクシー協会」があります。協会では、子連れのお客様が安全に安心して利用できるための研修だけでなく、お子様だけの利用や夜間の利用、妊婦などにも対応できる研修を提供しています。研修の他、子育て支援ドライバー保険の開発、フォローアップ、情報提供なども行っています。



この冊子作成にあたり、全国子育てタクシー協会に全面的にご協力いただきました。



問い合わせ先

全国子育てタクシー協会（事務局 NPO 法人わははネット）

電話 087-822-5589

URL <http://kosodate-taxi.com/>

※『子育てタクシー』は全国子育てタクシー協会の登録商標となっております。



タクシーによる育児支援移送サービスの今後の課題分析及び  
運転者に対する講習カリキュラムの策定検討委員会

長谷川 万由美	宇都宮大学教育学部 准教授
八 藤 後 猛	日本大学理工学部建築学科 専任講師
岡本 八重子	社団法人 全国乗用自動車連合会 理事
杉山 千佳	有限会社 セレーノ 代表取締役
松田 妙子	NPO法人 せたがや子育てネット 代表理事
葦澤 美也子	とうきょう子育てねっと
内田 輝美	全国子育てタクシー協会 会長
山下 勝久	有限会社大和タクシー 代表取締役
黒田 司郎	堺相互タクシー株式会社 代表取締役
布田 康博	堺相互タクシー株式会社 ドライバー
中橋 恵美子	NPO法人 わははネット 理事長

タクシーをもっと身近な乗り物に…  
子連れにやさしいドライバーになろう！

---

発行	平成20年3月
発行者	国土交通省自動車交通局旅客課
電話	03-5253-8111
企画・編集	NPO法人 わははネット
	有限会社 セレーノ
印刷協力	社団法人 全国乗用自動車連合会
印刷	有限会社 にいはら

---